



KINAN HOSPITAL  
OFFICIAL INFORMATION PAPER

January 1st.2017

vol.50

# さざん くるす



真田庵



病院長  
赤木 秀治

皆さま、明けましておめでとうございます。  
皆さまには希望に満ちた新しい年を迎えられたことと存じます。  
今年も皆さまのご多幸とご活躍を祈念申し上げます。

新年を迎えるに当たり、昨年を振り返ってみますと、昨年も様々な出来事が世間を賑わせました。国内では、熊本地震や築地市場の豊洲移転問題などがあげられるでしょうか。熊本地震では甚大な被害が発生しましたし、豊洲移転問題では新市場建設において、普通の市民感覚では考えられないような不祥事が発覚しました。また、国外に目を向ければ、イギリスでは国民投票の結果、EU離脱が決定したこと、アメリカ次期大統領選挙にトランプ氏が当選したこと等があげられるでしょうか。これらの出来事はそれぞれ性格は異なるものの、世の中は予測し得ないことあるいは想定外の出来事が起こる可能性が常にあることを物語っています。と同時に、イギリスやアメリカの出来事を見ていると、世界の潮流は少しずつ変わってきていると感じずにはいられません。

病院を取り巻く状況を見ても、やはり世の中は少しずつ変化してきていると感じざるを得ません。医療に関連する法律や制度も変化してきていますし、何より人の心も変化してきていると感じます。すなわち、我々医療者側の気持ちや常識と患者さん側の気持ちや常識が乖離してきていると感じることが時にあります。この解決には、どちらの常識が理に合っているかは別にして、双方が互いに理解する努力をすることが必要なのでしょう。

人々の考え方や生き方が多様化する中で、今後は他を理解する努力と、世の中の変化に対応できる気持ちの柔軟性がより一層必要になると思います。

さて、今年は酉年です。ウィキペディア等によれば「酉」は「緇(糸酉)」(しゅう:「ちぢむ」の意味)で、果実が成熟の極限に達した状態とされています。成熟の極限を過ぎれば後は衰退の一途、とならないように、病院経営においても、医療に係る諸事情を理解し、変化に対応できる柔軟性を持ち続けるように努力してまいりますので、本年も皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成29年1月

## 真田昌幸・幸村ゆかりの真田庵

1567年)真田幸村誕生。  
幸村は若くして父親譲りの軍才をいくつもの戦で発揮します。  
1600年)関ヶ原の戦いでは父(昌幸)と幸村の西軍が敗れてしまい、徳川家康に高野山での謹慎を命じられました。  
その年の冬に高野山の麓の九度山に移り住み、来るべき日に備えて兵

術や水練の特訓を重ねます。また、刀の柄に巻く丈夫な真田紐を織り、家来が全国各地に売り歩き諸国の動静を探ったり資金集めをしていたと言われています。  
1611年)父・昌幸は再起の夢も虚しく病没。その後の幸村は兄・信幸の仕送りに頼る程の苦しい生活を送っています。

1614年)豊臣と徳川の関係が悪化すると、豊臣の使者が「幸村殿の力を貸して頂きたい。」と訪ねて来ます。幸村はすぐさま快諾します。幸村は大助(息子)と共に地元の人々の協力を得て14年暮らした九度山を後にします。

皆さんは病理診断科についてご存じですか？関心がありますか？



中央臨床検査部長  
尾崎 敬

今から、国際化の渦中にある病理診断科の診療業務について説明します。主に4つの診療業務があります。

①**病理組織診断**、②**細胞診断**、③**病理解剖(剖検診断)**、④**精度管理**です。臨床各科からの依頼に対応するため臨床各科の知識が広く要求されます。最近では各科の診断基準の改訂が以前よりも、短期間で細分化されつつあるように思われ、それぞれに対応するための知識が広範囲なため、習得が追いつかなくなりつつあります。以下①②③④について現状を説明します。

①**病理組織診断**は従来の診断として主に内視鏡を用いた生検組織診断、手術材料による組織診断、免疫組織化学的診断、手術中の迅速診断、さらに最近増加してきた癌治療に関わるコンパニオン診断、ゲノム病理診断(分子病理学)、遠隔地域での手術中迅速診断として遠隔病理診断(デジタルパソロジー)が挙げられます。最近では、治療のため詳細な検討項目が増えており、免疫組織化学診断とコンパニオン診断の件数の増加、ゲノム病理診断(分子病理学)の理解とともに、以前より業務量が増加しています。分子標的薬があらゆる臓器の悪性腫瘍に対し次々と開発され、コンパニオン診断は加速度的に増加しています。分子標的治療に深くかかわるため各臓器腫瘍のコンパニオン診断に必要なガイドラインあるいはガイダンスを理解していることを前提として行われます。

その他、バーチャルスライドの発達に伴い当院と新宮市立医療センターとで行われている遠隔病理診断(デジタルパソロジー)もガイドラインに従って行われています。デジタルパソロジーは新時代に入りつつあり、我々も理解と対応が要求されつつあります。

②**細胞診断**は子宮(頸部、内膜)、尿、喀痰、体腔液(胸水、腹水)、乳腺、甲状腺、口腔内の腫瘍細胞を採取し主に細胞形態レベルで良性悪性判定や特定の疾患を評価する診断法です。組織構築と細胞形態を融合した組織診断よりも患者さんに苦痛を与えることが比較的少ない低侵襲性の診断として従来から確立されています。ただし、ここ数年で従来の日本の診断基準、評価法から国際基準(あるいはベセスダシステム)に従う診断、評価法に改訂されつつあり、時代の流れについていくことが難しくなりつつあります。特に、ここ数年前から全国に広がりつつある液状検体(LBC標本)を用いた細胞診断法は国際基準に沿って行われ、細胞診の他、保管された細胞からウイルス検査が可能となり、ときには免疫組織化学的検討を容易できるようになりました。液状検体については当院も検討課題と考えます。バーチャルスライドの発達に伴い細胞診の自動スクリーニングは2001年に米国FDAの承認を既に受けており、日本も将来的に対応が迫られる可能性があります。

③**病理解剖(剖検診断)**は病院で病気が原因で亡くなられた患者さんに対してご遺族の承諾、同意をもとに行います。亡くなられた原因、病気の広がり、治療効果の評価を検討するために行われ、医療における教育、診断、治療に貢献することはもとより、「医療の相互検証力」と理解されます。その主旨は「失敗に学ぶ」のではなく、「失敗を予測し未然に防ぐ」必要があり、そのために医療者間で相互に検証しながら医療を進める、という基本姿勢が重要との考え方です。

病理解剖は1980年代に解剖数・解剖率のピークがあり、1990年以降は減少に転じています。この低下の背景には、日本における医療の問題が強く反映されていると思われます。複数の要因がありますが、一つには病院における医師の業務量の増加によって余裕がなくなり、病理解剖への熱意・関心が低下し、病理解剖実施率の低下と病理解剖数の減少をもたらしたと考えます。この状況下でもCPC(臨床病理検討会)をできるかぎり行う意義はCPCを通じて症例を検討することにより、「相互検証力」を一定の水準に保つことが重要な機能であるとの考えからです。実際、「病理医」は医療を常に検証する立場にあります。

医療を取り巻く状況が象徴的にあらわれたのが「診療関連死」問題で、2010年の日本医療安全調査機構の設立、第6次医療法改正により2015年10月から医療事故に関する新たな制度が開始され院内の予期しない死亡について第三者機関に報告の上、院内調査を進めることが病院管理者に義務づけられました。「病理医」は問題症例を検討調査するため病理解剖をおこない報告書作成と、医療プロセスの調査と併せた検討調査の一翼を担うことが基本となります。

④**精度管理**については、診断病理学分野にその概念の導入の試みがなされて既に20年余りが経過していますが、「精度管理の概念」が普及していません。一方、米国では臨床検査における施設間格差が問題視され、1940年代に施設間格差をなくすための精度管理の概念が始まっています。我が国では病理診断は医行為であり、がん診療の均てん化を求める患者・家族の要望などを背景に2008年4月に病理診断科が標榜診療科となりました。同時に医療法の改正により、診療報酬点数表で第3部にあった「病理学的検査」が第13部に移行し、名称も「病理診断」に変更され、病理診断科は病院の中で患者さんから見える部門になったわけです。このことは「病理診断」により患者治療に関する重要な情報を正確に、迅速かつ安全に提供する病理医の社会的評価と責任がより明確になったことを意味しています。診断病理に関わる医師や臨床検査技師が日常的に業務精度の維持・向上に向けて努力すべきことは当然ともいえるのです。

この精度管理には内部精度管理と外部精度管理があります。内部精度管理に関しては日本病理学会から精度管理指針の提言が行われたが、各施設や個人に委ねられているのが現状です。外部精度評価に関しては日本臨床検査技師会、医師会などが主催するコントロールサーベイ、ISO15189、CAP(College of American Pathologists)の監査やサー





## 研修医日記

研修医  
川浪 翔大

皆様初めまして。紀南病院研修医の川浪翔大と申します。名前だけでも覚えていただければ幸いです。

見た目の特徴を強いて挙げるならば、「ネズミみただね」とよくいわれます。さざんくろすという大舞台上で半ページ程使わせていただくのはとても恐縮です。興味がある方は目を通していただければと思います。

私は、大阪の公立小学校を卒業し、大阪星光学院中等部・高等部を卒業し、大阪大学に進学し、紀南病院に就職いたしました。大阪、兵庫、京都にある進学校と呼ばれる中学・高校は、中高一貫かつ、男子校、女子校がほとんどです。私の高校も多分に漏れず、男子校でした。皆さん想像できるでしょうか。人格形成に大切な思春期に、甘酸っぱい思い出であろう思春期に、周りに男しかいないという状況を。14歳は性格が一番とがっている時期ではないでしょうか。髪の毛にwaxという名の油を塗りたくり、15分おきに鏡を見て確認する14歳。周りには男しかいません。それでも、誰に見せるでもなく髪の毛をいじりつづけます。女性が止めてくれれば、その髪型がおかしいことはわかります。しかし、男だけの世界ではわかりません。気がつけばニワトリのような髪型で街中を歩いています。男子校あるあるです。そんな偏りのある集団であるからこそ、圧倒的な個性が形成されます。医学部オネエタレントとしてTV出演した同級生、NMB48のT.O.(トップオタの略称)としてその業界では超有名人の同級生など、年を経ても個性は薄れません。



そんなこんなで大阪で24年間生きてきました。大阪の病院に就職しようと面接を受けるも、不採用。勤労の義務を果たせない苦しさで悶えていた時、うどん大好きな藤内君が声をかけてくれました。「紀南病院に来いよ。」と。香川県民藤内君の紀南魂に感銘を受け、紀南病院の採用試験を受け、拾っていただき、新天地田辺で、現在研修医として働かせていただいています。

休みは、扇ヶ浜でキャッチボールをしたり、スポーツパークで中学生とフットサルをしたり、毎回トイレの神様がエンディングテーマのFM TANABEを聞いてみたりと田辺lifeを満喫しております。仕事に関しては、拾っていただいた恩を働いで返そうという気持ちはありますが、医療は難しく、苦悩する毎日でもあります。そんな折、きさくに話し、丁寧に指導して下さるスタッフの方に支えられ、日々勉強という気持ちで一步ずつ学ばしていただいています。医師/医療人としての生き様、在り方を背中であらわす様々な職種の方々に出会い、感謝してもしきれません。まだまだ未熟で矮小な人間ですが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 当院研修医の 症例報告が 学会で表彰!!

当院研修医の藤内康平先生と川浪翔大先生の症例報告が、秀逸な発表として各学会で表彰されました。二人とも、考察に考察を重ねた上での症例報告で、審査員から高く評価されました。学会報告と言いますと研究という側面が強いので、大学病院の医師の方が水準の高い報告をするというイメージがあります。しかしながら、当院は伝統的に研究にも力を入れて来ており、これまでも優れた研究発表を世に問うてきました。研修医の育成においても、臨床だけでなく医学研究の教育にも力を注いでおり、それが学会表彰という形で結実したものと思われま



研修医 川浪 翔大

第214回日本内科学会  
近畿地方会(12月3日)  
若手奨励賞(初期研修医)  
最優秀賞  
「意識障害をきたした  
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の2例」



研修医 藤内 康平

第122回日本循環器学会  
近畿地方会(11月26日)  
学生・初期研修医セッション  
優秀演題賞  
「脳腱黄色腫症に合併した  
労作性狭心症の1例」

ベイへの参加、医療関連サービスマーク制度、コンサルテーションシステムやテレパソロジーの活用などが挙げられます。精度管理の対象は、病理検体提出時の受付、切出し、標本作製、組織診断、細胞診断、術中迅速診断、病理解剖、遠隔診断、特殊染色、免疫組織化学、電子顕微鏡、FISHや遺伝子検索などの補助的診断、病理診断報告書作成などすべての業務です。病理組織診断、細胞診、コンパニオン診断、ゲノム病理診断(分子病理学)、遠隔病理診断(デジタルパソロジー)の国際化の流れを受けて、精度管理活動に取り組むことが今後さらに強く求められています。

最後になりましたが、ここ数年で病理診断業務は診断基準・診断業務の国際化の流れの中で、新たな知識が増加し、それぞれの事象に対応する必要に迫られています。大学にいるときは常に最新の情報を得ることができましたが、地方病院の一人病理医になりますと、どうしても時代の変化に対応することが難しくなりつつあることを実感します。「地域住民から信頼される上質な医療」で地域医療に貢献することが紀南病院の基本理念であるのなら、私は時代の流れについていくための絶え間ない努力と日常業務に真摯に向き合うことで、一步一步、着実に前進するつもりです。以上の内容から、少しは病理診断科について理解して頂ければと思います。

# 病院のまど

## 第62回市民健康講座

人間の関節の中で、最も大きく動くのが肩の関節です。腕を伸ばしてゆっくり回してみるとわかるようにほとんど全方向に動きます。しかし、年齢を重ねると肩を構成する部分の強度が少しずつ低下します。肩の痛みを軽く考えず、その原因と解消法、予防法について学びませんか？

日時 平成29年1月29日(日)  
午後2:00~3:00

演題 本当に五十肩？  
～肩の痛みについて～

演者 三宅 悠介(紀南病院  
整形外科)

会場 紀南病院 3階講堂

### 学校便り

11月2~3日

「たくさんの笑顔と感謝を届けよう」をテーマに学校祭を開催、模擬店・ビンゴ・野菜やバザー品などの展示即売を催しました。出品は、ハモニティ、こころの医療センター、南部高校、熊野高校からご協力いただき、2日間で約380名の地域の方々と交流を深めることができました。

なお模擬店の利益や募金は、学生自治会の方から熊本県の災害復旧対策に寄付を致しました。

### 編集後記

朝夕の冷え込みが辛くなかなか早起きできない季節となりました。去年は、地球温暖化の影響で11月に都心部で降雪が54年ぶりにありました。紀南地方では震度4の地震があり、とても怖かったのを覚えています。何が起こるか、わからない状況なので、災害拠点病院として病院スタッフ1人1人が危機感を持つ事が大切だと痛感しました。

by 地震怖い子

## New face さ～ん 《医師》

えのもと けいすけ

《耳鼻咽喉科》榎本 圭佑

①和歌山市②ゴルフ・サックス③40年前に祖父が田辺市で開業しておりました。世代を超えて田辺市の耳鼻咽喉科治療に貢献できます事を楽しみにしております。



- ①出身地
- ②趣味  
(特技・得意技)
- ③一言アピール  
(敬称略)

## daikoku 株式会社 大黒

本社：〒640-8525 和歌山県和歌山市手平 3-8-43

- 和歌山事業所 : 〒641-0012  
和歌山市紀三井寺855-71
- 紀三井寺事業所 : 〒641-0014  
和歌山市毛見 1111-1
- 大阪支店 : 〒550-0002  
大阪市西区江戸堀 3-5-27
- 南大阪支店 : 〒594-0031  
和泉市伏屋町2-16-11
- 紀南支店 : 〒646-0011  
田辺市新庄町3778-2
- 神戸支店 : 〒650-0023  
神戸市中央区栄町通5-2-6
- 奈良支店 : 〒630-8115  
奈良市大宮町4-295-10  
奈良朝日生命川口ビル 1F
- 関西空港営業所 : 〒590-0523  
泉南市信達岡中919-1
- 新宮営業所 : 〒647-0052  
新宮市橋本 2-5-61
- 東京麹町オフィス : 〒102-0083  
東京都千代田区麹町3-5-2  
BUREX 麹町 301号
- 京都丸太町オフィス : 〒606-8395  
京都市左京区丸太町通川端東入  
東丸太町32-3 上田ビル 3F

DAIKOKU MEDICAL SUPPLY

保健・医療・福祉の分野で、

「生命を守る人の環境づくり」を通じて

地域の発展に貢献することが

私達の使命です。

**SEIKO MEDICAL**  
医療の先へ。セイコーメディカル株式会社

■本社  
〒640-8287 和歌山市錦港6丁目9番地の10  
TEL. 073-435-2333 FAX. 073-435-2223

■大阪支店  
〒595-0012 泉大津市北豊中町2丁目5番28号  
TEL. 0725-31-3610 FAX. 0725-31-3619

■医大前営業分室  
〒641-0012 和歌山市紀三井寺768番地の13  
TEL. 073-448-3787 FAX. 073-448-3781

■田辺営業所  
〒646-0011 田辺市新庄町2744番地  
TEL. 0739-25-4535 FAX. 0739-25-4578

■新宮営業所  
〒647-0072 新宮市橋本20番22号  
TEL. 0735-31-9130 FAX. 0735-31-9133

■奈良営業所  
〒632-0082 天理市荒蕨町56番地の4  
TEL. 0743-64-3607 FAX. 0743-64-4810